

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関名：上越教育大学 連携機関名：上越市教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名： 教科等におけるインクルーシブな授業づくりのポイント～通級指導教室での自立活動の時間の指導と各教科等の授業との関連をいかに図るか～
支援事業報告書	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 教科等におけるインクルーシブな授業づくりのポイント～通級指導教室での自立活動の時間の指導と各教科等の授業との関連をいかに図るか～
	開催日時：令和4年6月20日(月)～令和5年2月21日(火) 開催場所：上越教育大学(新潟県上越市山屋敷町1番地) 参加人数：総数581人(内訳：教員467人(小学校358人、中学校87人、高等学校4人、特別支援学校18人)、大学院生76人、大学教員29人、指導主事9人)

**内容：**

令和2年度及び令和3年度に実施してきた、各教科等と通級による指導との関連を図る教員間連携力育成のための研修の成果と課題を踏まえ、令和4年度研修においては、令和2年度及び令和3年度の研修を受講してきた教師が、研修によって得た学びを活かし、実際にどのように教科等及び通級による指導の授業改善を図ったかについて話題提供していただくことにした。また、自立活動の時間における指導と各教科等の指導との関連を図る実践を蓄積している特別支援学校における授業づくりの知見や関連機関との協働についての実践例を取り上げ、教科等におけるインクルーシブな授業づくりのポイントを学ぶ内容とした。なお、本研修は新潟県教育委員会の後援を受けて実施した。以下、実施した研修会のテーマを示した。

- 第1回6月20日(月) 学校の教育活動全体を通じて行う自立活動の指導
- 第2回7月13日(水) 通級指導教室における自立活動の時間の指導と小学1年生「国語科」の授業との連携
- 第3回7月25日(月) 特別支援学級における自立活動の時間の指導と小学校音楽科の授業との連携
- 第4回8月18日(木) 関係機関との連携による子ども理解と支援(子ども虐待の話題を中心に)
- 第5回9月13日(火) 通級指導教室(言語障害)における自立活動の時間の指導と各教科等の授業との連携
- 第6回10月18日(火) 通級指導教室(発達障害)における自立活動の時間の指導と各教科等の授業との連携
- 第7回11月22日(火) 教科等の学びを支える通級指導教室におけるICT活用
- 第8回12月23日(金) 関係機関との連携による通級指導と教科等の授業づくり
- 第9回2月15日(水) 特別支援学校における自立活動の時間の指導と国語
- 第10回2月21日(火) 通級指導教室における読み書きの苦手な児童への指導や支援

**成果：参加者からの内容や実施方法に関する肯定的な評価が得られた。**

第1回から第10回の研修会事後アンケート結果

●選択肢によるアンケート結果

- ①「自身の経験や実践と研修内容を結び付けることはあったか(5たくさんあった～1全くなかった 5件法)」について、肯定的な評価が全体の94%であった。
- ②「研修内容は今後の指導に役立ったか(5非常にそう思う～1全くそう思わないない 5件法)」について、肯定的な評価が98%であった。

●自由記述による感想、意見、要望等(一部)

- ①「特別支援」という言葉を見ただけで「あ、自分には関係ない。支援級担任のための研修だ」と思う方が多いようです。私は通常学級担任ですが、通級指導教室のお話は、日々の授業づくり、学級づくりにものすごく役立つことばかりです。
- ②教科の授業において児童生徒同士のコミュニケーションや関わりという視点からも自立活動の観点で指導できるのかなとか、体育という教科での指導とか、いろいろ自分で考える機会になりました。
- ③言葉ひとつをとっても子どもにどうイメージを持たせるか、自立活動だけでなく、毎朝、ホワイトボードを活用されているなど、とても参考になりました。言葉のイメージや他者理解に苦手さがある特別支援学級の子どもたちに生

かしていきたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。

- ④ 知的学級の生徒で自立活動をどのようにやっていいのかよく分からなかったので、参考にさせていただきたいです。また、来年度難聴生徒を受け入れるため、本人の感じる世界が少し見えて、大変勉強になりました。
- ⑤ 連携の大切さとともに難しさを感じている毎日です。具体的な連携方法、それを子どもの成長に活かすためのポイント等をお聞きでき、大変勉強になりました。
- ⑥ チームになる、チームの一員である、その自覚と覚悟と楽しさとやりがいを感じられたら最高ですね。そのための努力を覚悟を持って続けていきたいと思います。
- ⑦ ICT を効果的に使う方法をあまり思いつかず、時間と手間がかかっていた面が多くありました。今回実践されたことを取り入れて効果的かつ時間を短縮し、子どもの実態を把握するために時間を使いたいと感じました。
- ⑧ 実践されたことは勿論のこと、講師の先生の人間性、教育観に引き込まれました。また、教室環境も見せていただき、とても参考になりました。大変ありがとうございました。
- ⑨ 気づきに応じた支援の方略が、担任と連携する際に参考にさせていただきます。アセスメントやツール、支援方法など、とても勉強になりました。
- ⑩ 通級指導の対応だけで手一杯の状態のため、教科の授業との連携はやったこともないのですが、このような実践を教えていただくことで、新たな視点ができました。今後の対応に生かしていこうと思います。

### アイデアや工夫したこと：

- ① 学習指導要領に示されている特別支援教育の推進と関連させ、前年度のアンケート結果や学校現場の課題を各回のテーマに反映させ、現場の先生方のニーズに応じた研修を設定している。
- ② オンラインによる放課後の 1 時間の研修を設定することで、現場の先生方が参加しやすい形態を取っている。また、講義形式、グループディスカッション等、多様な研修形態を取り入れ、内容の充実を図っている。
- ③ 年間計画を事前に配布することで、参加者が自身の課題や興味のあるテーマを選択して参加できるようにしている。4 年目の今年度は、受講対象者を通級指導教室担当教師以外に特別支援教育コーディネーター、学級担任、特別支援学校教員等にも拡充し、上越地域のみならず新潟県内の教育委員会に対し広く周知した。その結果、校内研修として年間計画に位置付ける学校もあった。

### <写真・図など>

本事業は、Zoom によるオンラインで実施した。上段の写真は、その時の様子を示したものである。コロナ禍により対面での研修が困難な状況が続く中、オンラインの方法を活用することにより、多くの先生方から年間 10 回の研修に参加いただいた。また、ブレイクアウトルームを活用し、参加者同士で意見交換を行う場を設定するようにした。継続的な学びの場の確保とともに、教師において、同じ学が仲間であるとの意識を醸成できたのではないかと考えられた。



令和 4 年度研修では、令和 2 年度及び令和 3 年度の研修を受講してきた教師が研修によって得た学びを活かし、自校において、通級による指導と教科等の授業との密接な関連を図る授業改善に取り組んだ実践例を話題提供していただいた。下段の写真は、通級担当教師による話題提供中の Zoom 画面の写真である。話題提供者が大学の教員ではなく、同じ通級担当教師であり、地域の同僚教師が取り組んだ実践例を聞くことにより、研修参加者の授業改善への取り組みに対する主体的な意識を高めることにつながったのではないかと考えられた。

